

さとうきび増産に向けた取組の実績及び評価

沖縄県本島南部

〔 那覇市、豊見城市、糸満市、南城市、 〕

増産プロジェクトにおける令和6年産生産計画の達成状況及び今後の取組状況

生産計画の
達成状況等

1 令和6年産の生産実績

	収穫面積 (ha)				単収 (kg/10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計
H29年産実績	111	175	1,002	1,287	7,666	5,722	5,944	6,062	8,486	9,995	59,546	78,028
H30年産実績	89	184	998	1,272	6,729	4,461	5,110	5,129	6,005	8,223	51,008	65,236
R元年産実績	74	182	931	1,186	7,444	4,496	4,729	4,862	5,482	8,179	44,022	57,683
R2年産実績	109	180	928	1,218	6,972	5,155	5,644	5,690	7,604	9,303	52,403	69,310
R3年産実績	84	180	956	1,220	7,451	5,241	5,288	5,431	6,285	9,409	50,552	66,247
R4年度実績	55	140	997	1,192	8,120	5,252	5,308	5,431	4,477	7,378	52,921	64,776
R5年増産実績	55	143	969	1,168	7,027	4,688	4,712	4,818	3,886	6,701	45,671	56,258
R6年増産計画	140	209	1,045	1,394	8,100	5,100	6,100	6,151	11,340	10,660	63,745	85,745
R6年増産実績	53	149	894	1,096	7,434	5,269	5,591	5,637	3,939	7,847	49,975	61,762
(対計画比%)	(37.9)	(71.3)	(85.5)	(78.6)	(91.8)	(103.3)	(91.7)	(91.6)	(34.7)	(73.6)	(78.4)	(72.0)
(対前年比%)	(95.8)	(104.2)	(92.2)	(93.8)	(105.8)	(112.4)	(118.7)	(117.0)	(101.4)	(117.1)	(109.4)	(109.8)

2 その他指標の動向 令和5年産→令和6年産

・株出栽培の割合	83.0%	→	81.6%	・さとうきび作農家戸数	2527戸	→	2462戸
・平均糖度	14.7度	→	14.4度				

<p>増産目標に対する位置づけ</p>	<p>令和6年産 生産計画及び実績については、以下のとおりであった</p> <table border="1" data-bbox="481 263 1176 375"> <thead> <tr> <th></th> <th>収穫面積</th> <th>単収</th> <th>生産量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(計画)</td> <td>1,394ha</td> <td>6,151kg/10a</td> <td>85,745t</td> </tr> <tr> <td>(実績)</td> <td>1,096ha</td> <td>5,637kg/10a</td> <td>61,762t</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和6年産の当初の増産目標は、収穫面積1,394ha、単収6.1t/10a、生産量85,754トン进行計画していた。関係者一体となった増産に向けた取組として、多回株出しの更新、栽培講習会等による雑草・病虫害防除対策の指導、早期高糖性、耐風性の優良種苗の普及を行った。今期の栽培について、降水量は平年より多くさとうきびの初期生育に十分な降雨があったが、一方で管理作業の遅れや雑草が繁茂しやすい状況となった。梅雨明け後は平年より高温で推移し、降雨が少なく干ばつ傾向となった。しかし、9月以降は適度に降雨があり、茎伸長につながった。その結果、単収および生産量は昨期より増産を見込んでいる。</p> <p>糖度については、製糖開始当初は低く、1月上旬では平均13.35度であり低糖度であった。製糖開始から1カ月経過した2月中旬に平均が14度を超え、糖度が安定した。</p> <p>次期生産に向け、各産地においては、早期株出管理、肥培管理の徹底、補植及びかん水の実施等呼びかけている。</p>		収穫面積	単収	生産量	(計画)	1,394ha	6,151kg/10a	85,745t	(実績)	1,096ha	5,637kg/10a	61,762t
	収穫面積	単収	生産量										
(計画)	1,394ha	6,151kg/10a	85,745t										
(実績)	1,096ha	5,637kg/10a	61,762t										
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株出回数が4回以上の古株ほ場が株出面積の4割近くを占め単収減が懸念されるため、更新が必要 ・ つる性雑草等難防除雑草の除草対策やメイチュウ類等の害虫防除対策 ・ 高齢化等による作業受託要望が増加する一方で、収穫期と植付・株出管理作業の時期が重なることによるオペレータ不足 												
<p>令和6年産における取組方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊休地の解消による栽培面積の拡大やユンボ深耕による株出ほ場の更新促進および後継者の育成 ・ 茎数確保に向けた適期植付、早期株出管理及び雑草・病虫害防除、施肥等の栽培管理技術指導及び普及推進 ・ 効率的な作業受委託の促進およびオペレータ育成の支援 												

(1) 経営基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																											
<p>① 効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫作業請負組織等の編成支援(10～3月) ・ 生産者ほ場作付調査の実施 ・ 農業機械士養成研修受講支援(6～8月)、オペレータ技能向上研修の実施(11月) <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="443 491 1451 689"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>16</td> <td>22</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>農業法人</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化に伴い無脱葉収穫請負の需要はあるが、作業員の確保が難しく受託面積が縮小している ・ 機械収穫委託の需要は増加する一方、収穫期と植付・株出管理作業の時期が重なりオペレータ不足が生じている ・ 収穫面積の確保と単収向上 		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	認定農業者	16	22	17	14	16	9	10	13	農業法人	15	16	16	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫作業請負組織の支援、効率的な受委託体制の整備および機械収穫等により労力補完を図る ・ 収穫・植付・株出し管理等作業ごとのオペレータの育成・確保 ・ さとうきび協議会や製糖工場の助成事業を活用し、面積の拡大や単収向上に取り組む
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																					
認定農業者	16	22	17	14	16	9	10	13																					
農業法人	15	16	16	—	—	—	—	—																					

②農業共済制度への加入促進	【実施した取組】 <ul style="list-style-type: none"> 生産者ほ場作付調査(OCR調査)等と併せた加入促進 個人別危険段階共済掛金の導入についてPR 生産組合の総会等にて収入保険制度の説明を実施 									<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、農業共済組合との連携を図り、加入促進を図る ほ場作付調査の際に、個別に加入の意思確認を図る 収入保険制度についても加入推進を図る 	
	【目標の達成状況】										
		H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	R6 (R7年産)		
	加入戸数 (戸)	527	468	403	384	389	328	307	264		
	戸数引受率 (%)	19.8	19.3	17.0	16.7	16.4	14.3	13.0	11.5		
	引受面積 (ha)	316	257	232	226	236	200.1	187.1	163.1		
	面積引受率 (%)	25.4	22.1	19.4	18.9	19.8	16.7	15.7	14.2		
	共済金額 (千円)	329,571	281,884	258,981	246,485	221,258	4,775	-	-		
注) R4、R5年産の数値については概算値											
【課題】 <ul style="list-style-type: none"> 小規模農家の加入促進 共済制度の意識啓発 											

(2)生産基盤の強化

項目	取組実績及び課題								今後の取組方向	
①気象災害に強い生産基盤の整備	【実施した取組】								・植付時や梅雨明け後のかん水効果について、適期講習会・実演会の開催やかん水車の活用促進 ・発芽不良か所の補植の啓発・推進 ・春植えほ場における早期植付の推進、耐風性品種の導入推進	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ かん水講習会の実施(7月)、かん水車等の活用促進 ・ 豪雨による表土の流亡、春植えほ場における苗の流出等の調査 ・ 耐風性品種の導入や栽培講習会での周知 									
	【目標の達成状況】 (単位:%)									
		H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 見込	R5 実績		R6 見込
	ほ場整備率	65.3	65.3	65.3	65.4	65.4	63.1	72.6		72.6
水源整備率	51.1	51.2	51.2	51.2	51.2	46.1	55.3	55.3		
畑地かんがい整備率	22.0	22.1	22.6	22.8	23.9	20.7	26.1	26.1		
【課題】										
<ul style="list-style-type: none"> ・ 取水場所のない地域のかん水未実施や、かんがい施設の利用率低迷 ・ 梅雨時期の集中豪雨による苗の流亡や埋没など、発芽不良の要因となっている ・ 植え付けが遅れた春植えにおける台風襲来時の梢頭部折損被害 										

<p>②機械化一貫体系の確立</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業法人へのハーベスタ等作業機械導入支援 ・ 株出管理推進大会(実演会)の開催(3月) ・ 機械管理作業受託受付の支援(10月) <p>【目標の達成状況】 (単位:台、ha、%)</p> <table border="1" data-bbox="443 416 1451 691"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハーベスタ 稼働台数</td> <td>90</td> <td>86</td> <td>85</td> <td>106</td> <td>102</td> <td>102</td> <td>94</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫面積</td> <td>601</td> <td>629</td> <td>556</td> <td>652</td> <td>659</td> <td>678</td> <td>732</td> <td>691</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫率(面積)</td> <td>46.7</td> <td>49.5</td> <td>46.9</td> <td>53.5</td> <td>54.0</td> <td>56.9</td> <td>62.7</td> <td>63.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化等労働力不足に伴い作業委託が増加しているが、機械の経年劣化や台数不足により農家のニーズに対応できていない ・ 株出し管理が遅れることで、雑草繁茂や分けつ数が少なくなることにより、茎数不足となる ・ 殺虫剤や除草剤の散布等を手作業で行っている農家が多く、防除に労力がかかっている 		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	ハーベスタ 稼働台数	90	86	85	106	102	102	94	93	ハーベスタ 収穫面積	601	629	556	652	659	678	732	691	ハーベスタ 収穫率(面積)	46.7	49.5	46.9	53.5	54.0	56.9	62.7	63.1	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーベスタ導入等による機械運用の最適化を図る ・株出管理推進大会(実演会)の開催による技術普及 ・農薬散布用ドローン等の実証・普及やスマート農業の推進
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																														
ハーベスタ 稼働台数	90	86	85	106	102	102	94	93																														
ハーベスタ 収穫面積	601	629	556	652	659	678	732	691																														
ハーベスタ 収穫率(面積)	46.7	49.5	46.9	53.5	54.0	56.9	62.7	63.1																														
<p>③地力の増進</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フィルターケーキ活用による植付時の覆土や補植苗作りの技術普及 ・ 補正事業を活用しユンボ深耕や心土破碎の実施 ・ 土壌診断の実施 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 堆肥等有機物を散布する機材がなく手作業で散布しており、大面積の投入・利用が困難である ・ 機械収穫によるほ場の転圧により、土壌理化学性・物理性の改善が必要 ・ 土壌診断コストの増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィルターケーキや堆肥、有機質資材等による土づくりを推進し、発芽や初期生育向上効果の技術普及 ・ユンボ深耕や心土破碎の実施 ・土壌診断の継続実施 																																				

(3) 技術対策

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																																								
<p>①病害虫対策</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回や講習会等によるメイチュウ類等害虫発生ほ場での防除指導 ・ドローンによる農薬散布支援 ・JA・工場・市町村の助成による農薬配布と一斉防除 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防除のタイミングが遅れた芯枯れ被害ほ場が見られる ・ドローンオペレータの確保 ・シロスジオサゾウムシの防除 	<ul style="list-style-type: none"> ・メイチュウ類等害虫防除指導 ・農業法人等オペレータの受託作業効率化に向けた支援 ・栽培技術講習会等による雑草・病害虫防除対策指導 																																																																								
<p>②優良品種の選択・普及</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良種苗ほの設置、種苗配布 ・地域に合った品種構成の提案 ・耐風性品種、機械化対応品種の導入検討 <p>【目標の達成状況】 (単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="443 855 1451 1206"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29 (実績)</th> <th>H30 (実績)</th> <th>R元 (実績)</th> <th>R2 (実績)</th> <th>R3 (実績)</th> <th>R4 (実績)</th> <th>R5 (実績)</th> <th>R6 (実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農林9号</td> <td>0.9</td> <td>0.8</td> <td>0.8</td> <td>0.7</td> <td>0.6</td> <td>0.0</td> <td>0.5</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>農林8号</td> <td>19.5</td> <td>16.7</td> <td>14.3</td> <td>12.3</td> <td>11.0</td> <td>9.1</td> <td>7.4</td> <td>6.2</td> </tr> <tr> <td>農林10号</td> <td>5.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.9</td> <td>1.4</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>農林15号</td> <td>2.1</td> <td>1.6</td> <td>1.9</td> <td>0.9</td> <td>0.8</td> <td>0.7</td> <td>0.6</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>農林17号</td> <td>2.3</td> <td>1.8</td> <td>1.3</td> <td>1.2</td> <td>1.1</td> <td>0.9</td> <td>0.8</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>農林21号</td> <td>19.1</td> <td>17.3</td> <td>15.3</td> <td>14.0</td> <td>13.8</td> <td>12.5</td> <td>11.3</td> <td>9.4</td> </tr> <tr> <td>農林27号</td> <td>12.3</td> <td>17.8</td> <td>23.9</td> <td>28.4</td> <td>33.0</td> <td>37.7</td> <td>43.2</td> <td>46.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林27号が収穫面積のうち4割以上を占めており、病害虫の発生や耐風性の面が危惧される ・機械収穫に適した品種の選択 ・早期高糖品種、株出し栽培に向く品種の栽培 		H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 (実績)	農林9号	0.9	0.8	0.8	0.7	0.6	0.0	0.5	0.4	農林8号	19.5	16.7	14.3	12.3	11.0	9.1	7.4	6.2	農林10号	5.0	-	-	-	-	0.9	1.4	1.3	農林15号	2.1	1.6	1.9	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5	農林17号	2.3	1.8	1.3	1.2	1.1	0.9	0.8	0.5	農林21号	19.1	17.3	15.3	14.0	13.8	12.5	11.3	9.4	農林27号	12.3	17.8	23.9	28.4	33.0	37.7	43.2	46.5	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培講習会等で品種について周知し、特定品種への偏りを軽減する ・機械収穫に適した株出萌芽性の良い品種の導入 ・新品種の展示ほ設置による周知や、種苗対策事業を活用し優良品種の普及を図る
	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 (実績)																																																																		
農林9号	0.9	0.8	0.8	0.7	0.6	0.0	0.5	0.4																																																																		
農林8号	19.5	16.7	14.3	12.3	11.0	9.1	7.4	6.2																																																																		
農林10号	5.0	-	-	-	-	0.9	1.4	1.3																																																																		
農林15号	2.1	1.6	1.9	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5																																																																		
農林17号	2.3	1.8	1.3	1.2	1.1	0.9	0.8	0.5																																																																		
農林21号	19.1	17.3	15.3	14.0	13.8	12.5	11.3	9.4																																																																		
農林27号	12.3	17.8	23.9	28.4	33.0	37.7	43.2	46.5																																																																		

<p>③栽培技術の普及等</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 肥料、病害虫・雑草、補植、かん水等栽培技術講習会の開催(4～11月) ・ 実証展示ほの設置(6月、10月)、株出管理講習会・実演会の開催(3月) ・ 補植器の貸し出しによる欠株対策(通年) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 株出管理作業の遅れ ・ 雑草対策の相談が多く、雑草がさとうきびの生育を阻害しているほ場が見られる ・ 多回株出しほ場において欠株対策が不十分である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株出管理推進大会の開催(4月)、かん水講習会(6月)等による、適期栽培管理技術の普及 ・ 除草剤の適正使用等、雑草防除に関する講習会の開催 ・ 補植苗作りから補植作業までの取り組み支援
------------------	--	--